儀式的行事における「礼儀」の指導内容に関する一考察

―高等学校の卒業式を手掛かりとして―

A Study on the Instructional Content of "Politeness" in Ceremonial Events

Examination of a High School Graduation Ceremony as a cue

柴崎直人

SHIBAZAKI　Naoto

［キーワード Keyword］　儀式的行事，卒業式，礼儀，学校行事，高等学校

［所　　属 Institution］　岐阜大学教育学研究科（Gifu University　Graduate School of Education）

［要　　旨 Abstract］

本研究では、現代の我が国における卒業式の儀式作法に注目し、そこでどのような内容が取り上げられているのか、またそれは学校種や、時期の特徴といった要因によっていかなる違いがみられるのか検討した。その結果、公立高校の方が私立高校より有意に実施している傾向が見られた内容項目として、国歌斉唱、祝電披露、来賓祝辞、来賓紹介の4項目を得た。また、私立高校の方が公立高校より有意に実施している傾向が見られた内容項目として、賞状授与、卒業記念品授与、保護者謝辞、記念品等目録贈呈、の4項目であるとの結果を得た。そして私立学校の特性であるスクール・アイデンティティの育成との関連や、私立高校に対する保護者の関与を象徴であることについて検討した。併せて新型コロナ禍の影響による式次第と内容項目の変化について検討し、コロナ禍の影響前と影響下の間で実施状況に関する偏りが有意に認められたものは、賞状授与、来賓祝辞、来賓紹介、送辞、保護者謝辞、式歌斉唱、蛍の光斉唱の7項目であり、そのうちコロナ禍の影響によって実施が少ない方向に偏りがみられたものは、来賓祝辞、来賓紹介、保護者謝辞、式歌斉唱、蛍の光斉唱であったとの結果を得た。またその背景及び今後同様の事態が発生した際の儀式的行事の内容の精選に関する対応について検討した。

1. はじめに

我が国の道徳教育において、「礼儀」はその価値項目の一つとして指導内容に挙げられている。特別の教科 道徳においては、小学校の第1学年から第4学年までがB-(8)「礼儀」として、第5学年から第6学年までがB-(9)「礼儀」として、中学校においてはB-(7)「礼儀」として、児童生徒が学ぶべき内容に示されている。このように義務教育課程における全ての学年において学ぶべき道徳的価値として、「礼儀」は示されている。

この「礼儀」の学びはまた、学校教育においては特別の教科 道徳にのみ果たされるものではない。それは、たとえば中学校学習指導要領の「総則」に「特別な教科　道徳」を要として「学校の教育活動全体を通じて行うもの」であることが示されている(1)ことから明らかである。ここから考えると、特別活動における学校行事、その中でも特に注目度と重要性が高いと考えられる「卒業式」においても、「礼儀」の学びが期待され、また実践が望まれているということになる。特に高等学校の卒業式においては、「儀式的行事の意義や、場面にふさわしい参加の仕方について理解し、厳粛な場における儀礼やマナー等の規律や気品ある行動の仕方などを身に付けるようにする」ことや、「厳粛で清新な気分を味わい，行事を節目としてこれまでの生活を振り返り，新たな生活への希望や意欲につなげようとする態度を養う」といったねらいが示されている(2)。このように、高等学校の儀式的行事においては、マナー、そして「儀礼」を身に付けさせる指導が求められているのである。

しかし、現実的には、学校におけるマナーに関する「行動の仕方」については、学校ごと、また教師ごとに統一されておらず、恣意的な内容と方法で展開されている現状がある。それが儀式的行事における儀式での「儀礼」の仕方、いうなれば「儀式作法」ともなれば、いっそうのこと、どのような内容を誰がどのように

教えるのか、という基準がこれまで一切示されず、その結果として恣意的な内容の指導が従来行われてきたといえる。この状況を改善するためには、まず我が国における卒業式の儀式作法において、いったい何がどれほど行われているのか、また学校種によってどのような違いがみられるのか、それは時代の特徴によって変化や変遷などの特徴は見られるのか、そのような状況を把握することがまず重要となるであろう。そのうえで、具体的な儀式作法における「意義」や「作法の意味」の指導に迫ることができるものと考えられる。

以上から、本研究においては、現代の我が国における卒業式の儀式作法に注目し、どのような内容が取り上げられているのか、またそれは学校種や、時期の特徴といった要因によるどのような違いがみられるのか、以上について検討するものである。

2．方法

2.1．卒業式にみられる式次第の抽出

高等学校の卒業式においてみられる儀式作法の内容について抽出するために、全国の高等学校における卒業式式次第にあたり、そこに提示されている儀式の内容を示す項目に注目し、そこから情報を得た。そのために、我が国のインターネット上にアップロードされているすべての高等学校における卒業式に関するウェブページにアクセスし、そこに文章や画像・映像等の形式で示されている卒業式の次第を得た。

検索のためのシステムとしてはGoogleを用い、検索語として「自治体名 ＋ 高校 OR 高等学校 ＋ 卒業式 OR 卒業証書授与式 ＋ プログラム OR 次第 OR 進行 OR 台本 OR 流れ」を入力した。また各種自治体等の議員や各学校の同窓会の関係者等、高等学校を離れたサイトに掲載される卒業式の式次第についても、検索の対象とした。同じ学校や検索先のサイトに複数の卒業式の式次第が示されている場合には、それらのうち最も新しいものを検討の対象とした。そして動画投稿サイトYouTubeにおける高等学校卒業式の動画にみられる、卒業式の式場内に掲示されている式次第も抽出の対象とした。抽出の時期は検索時に得られる最古から最も近しい卒業式、つまり2023年3月末までに実施された、2022（令和4）年度の卒業式までとした。検索を実施した期間は2003年4月1日から4月15日の間であった。

②式次第における儀式作法の内容に関する項目の抽出

高等学校の卒業式においてみられる儀式作法の内容については、①のような形で抽出された卒業式式次第に記されている儀式作法の内容項目を抽出し、そのうえで各内容項目についてその出現数を集計し、そののち検討を行った。あわせて、公立学校－私立学校、コロナ禍の影響を受ける以前（影響前）の2019年までの式次第－コロナ禍の影響を受けている（影響下）2020年～2023年の式次第、にそれぞれ分割したうえでの集計と検討も行った。なお、卒業式式次第の内容項目から本研究において検討する儀式作法を抽出するにあたり、卒業式において多く採用されているものの目安として、内容項目の出現率が50％を超えるものに注目し、検討すべき内容項目とした。またその中から儀式作法の抽出を行った。得られたデータの分析にはSPSS version 23を用いた。

③具体的な儀式作法の抽出とその検討の手掛かり

卒業式における具体的な儀式作法の内容については、①のように抽出された卒業式における各卒業式式次第の元となるインターネット上の画像、そしてそこに記述される説明書き、更にYouTube上の動画及びその説明文（「概要」欄の記述）等から対応する儀式作法を確認し、そこで提示されている儀式作法を得るものとした。

3. 結果と考察

3. 1. 高等学校卒業式式次第の検索結果

上述の検索語を用いてインターネット上の情報を検索したところ、我が国の47都道府県から、表１に示すように208校分の高等学校卒業式の式次第を得ることができた。うち公立高校のものが132、私立高校のものが76であった。卒業式を実施した年代別では、1999年までのものが2（うち私立0）、2000年から2009年まで

のものが9（うち私立4）、2010年から2019年までのものが88（うち私立23）、2020年から2023年までのものが114（うち私立49）となった。なお、1999年までの2件については、1978年3月に実施された1（広島県）、及び1989年3月に実施された1（愛媛県）という内訳であった。また、コロナ禍の影響の有無による分類では、影響前94（うち私立27）、影響下114（うち私立49）であった。また、「校長式辞」においては、私立学校のうち1校のみに校長式辞が認められなかったが、これは理事長と校長が同一人物による兼任であったため、「理事長式辞」にカウントし、「校長式辞」としては数えなかったためである。よって実際には理事長兼任校長が式辞を行っており、「校長」による「式辞」の伝達がなされなかったわけではない。卒業式の次第には「校長式辞」としての記載がなかったためこのような集計結果となっているものである。

3. 2. 公立高校と私立高校の比較

高等学校の卒業式における式次第について、公立高校－私立高校の属性の違いによる差を手がかりに検討した。属性間の比較において$\chi 2$ 検定を行った結果、公立－私立間で実施状況に関する偏りが有意に認められたものは次の8項目であった。

国歌斉唱（$\chi^2(1)=48.77,\ p<.01$）、賞状授与（$\chi^2(1)=52.63,\ p<.01$）、卒業記念品授与（$\chi^2(1)=15.65,\ p<.01$）、祝電披露（$\chi^2(1)=8.25,\ p<.01$）、保護者謝辞（$\chi^2(1)=11.54,\ p<.01$）、来賓祝辞（$\chi^2(1)=13.01,\ p<.01$）、来賓紹介（$\chi^2(1)=17.94,\ p<.01$）、記念品等目録贈呈（$\chi^2(1)=10.16,\ p<.01$）

これらのうち、公立高校の方が私立高校より実施している傾向が見られた内容項目としては、国歌斉唱、祝電披露、来賓祝辞、来賓紹介の4項目であった。また、私立高校の方が公立高校より実施している傾向が見られた内容項目は、賞状授与、卒業記念品授与、保護者謝辞、記念品等目録贈呈、であった。

3. 2. 1．公立高校が私立高校より有意に実施率が高かった内容項目

①国歌斉唱

国歌斉唱について、公立高校においては1970年代の広島県立高等学校１校を除いた全ての学校が実施していたのに対して、私立高校においては6割程度の実施にとどまっている状況がみられた。

公立学校において私立学校より圧倒的に実施率が高かった「国歌斉唱」については、高等学校学習指導要領（平成30年告示）において、たとえば学習指導要領の「第５章 特別活動　第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」に、「３ 入学式や卒業式などにおいては，その意義を踏まえ，国旗を掲揚するとともに，国歌を斉唱するよう指導するものとする」(3) とあり、生徒の学習内容のひとつとして明示されている。ちなみに、中学校学習指導要領（平成29年告示）の社会科においては、国歌について「『国家間の相互の主権の尊重と協力』との関連で，国旗及び国歌の意義並びにそれらを相互に尊重することが国際的な儀礼であることの理解を通して，それらを尊重する態度を養うように配慮すること」(4) と記述されており、「国際的な儀礼」としての国歌の意義やそれへの尊重に関する学習について明示されている。日本国民が国際儀礼（プロトコール）の学びをどこでどのように行うのかが定かではない現状において、卒業式から得られる学びとして、国旗及び国歌を通して、国際儀礼についての存在や意義、また具体的な内容を学ぶ希少な機会として得難いものと考えることができよう。グローバル社会の到来と呼応して、現代日本人においては必須の知識ないし教養といえる国際儀礼について、学校教育では如何にして扱うべきかの議論が今後求められるべきであろう。

②祝電披露・来賓祝辞・来賓紹介

公立高校の卒業式においては、なぜ祝電披露・来賓祝辞・来賓紹介に実施率が私立よりも有意に高かったのであろうか。

今回の調査において、公立高校の卒業式に関する式次第を入手した経路として、地元の自治体に関係する国会議員・都道府県会議員・市議会議員等のウェブページが少なからずみられた。これが意味するところとは、それら各種議員が、それぞれの選挙区の自治体に属する高等学校に積極的に赴き、保護者や生徒にその

表１　卒業式次第内容項目集計結果

式次第内容	(校)	(%)		～1999	2000 -2009	2010 -2019	2020 -2023	計(校) **p>.01	それぞれ公立・私立に占める割合(%)
卒業生入場	11	5.2	公立	.	.	3	3	6	4.5
			私立	.	1	3	1	5	6.6
					コロナ前-後小計→	7	4		
一同礼　始＆終	18	8.7	公立	.	.	8	3	11	8.3
			私立	.	.	3	4	7	9.2
					コロナ前-後小計→	11	7		
開式・閉式の辞	202	97.1	公立	2	5	60	63	130	98.4
			私立	.	4	20	48	72	94.7
					コロナ前-後小計→	91	111		
国歌斉唱	178	85.6	公立	1	5	60	64	130	98.4
			私立	.	3	15	30	48	63.2
					コロナ前-後小計→	85	94		
卒業証書授与	208	100	公立	2	5	60	65	132	100.0
			私立	.	4	23	49	76	100.0
					コロナ前-後小計→	94	114		
賞状授与	83	39.9	公立	1	.	15	12	28	21.2
			私立	.	4	15	36	55	72.4
					コロナ前-後小計→	35	48		
理事長等式辞	39	18.8	公立	.	.	.	.	.	0.0
			私立	.	1(25%)	17(73%)	21(43%)	39	51.3
					コロナ前-後小計→	18	21		
校長式辞	207	99.5	公立	2	5	60	65	132	100.0
			私立	.	4	23	48	75	98.7
					コロナ前-後小計→	94	113		
卒業記念品授与	14	6.7	公立	.	1	1	.	2	1.5
			私立	.	.	5	7	12	15.8
					コロナ前-後小計→	7	7		
来賓祝辞	151	72.8	公立	2	4	56	45	107	81.1
			私立	.	2	19	23	44	57.9
					コロナ前-後小計→	83	68	＊＊	
来賓紹介	58	27.9	公立	.	3	26	21	50	37.9
			私立	.	.	5	3	8	10.5
					コロナ前-後小計→	34	24	＊＊	
祝電披露	90	43.3	公立	1	1	32	33	67	50.8
			私立	.	1	9	13	23	30.3
					コロナ前-後小計→	44	46		
送辞	200	96.2	公立	2	5	60	62	129	97.7
			私立	.	4	23	44	71	93.4
					コロナ前-後小計→	94	106		
答辞	208	100	公立	2	5	60	65	132	100.0
			私立	.	4	23	49	76	100.0
					コロナ前-後小計→	94	114		
記念品等目録贈呈	80	38.5	公立	1	1	19	19	40	30.3
			私立	.	.	18	22	40	52.6
					コロナ前-後小計→	39	41		
保護者謝辞	38	18.3	公立	1	1	10	3	15	11.3
			私立	.	.	12	11	23	30.3
		46.6			コロナ前-後小計→	24	14	＊＊	
式歌斉唱	97	47	公立	1	5	38	20	64	48.5
			私立	.	4	15	14	33	43.4
					コロナ前-後小計→	53	34	＊＊	
校歌斉唱	198	95.2	公立	2	5	60	64	131	99.2
			私立	.	3	22	46	71	93.4
					コロナ前-後小計→	92	110		
仰げば尊し斉唱	24	11.5	公立	1	2	8	4	15	11.3
			私立	.	.	2	7	9	11.8
					コロナ前-後小計→	13	11		
蛍の光斉唱	31	14.9	公立	.	3	12	3	18	13.6
			私立	.	.	7	6	13	17.1
					コロナ前-後小計→	22	9	＊＊	
修礼	9	4.3	公立	.	.	5	2	7	5.3
			私立	.	.	1	1	2	2.6
					コロナ前-後小計→	6	9	9	
卒業生退場	15	7.2	公立	1	.	4	3	8	6.0
			私立	.	.	.	2	2	2.6
					コロナ前-後小計→	5	5		
学校独自の賞等授与	8	3.8	公立	.	.	3	.	3	2.3
			私立	.	1	2	2	5	6.6
					コロナ前-後小計→	6	2		

存在をアピールしている活動が背景に存在すると推察される。そのような立場の議員が参列すれば、学校側の対応としては当然ながら「来賓」として祝辞を述べてもらったり、来臨を披露したり、祝電があれば披露する流れとなることが、ごく一般的な常識として考えられる。このように、各種議員による祝電や来席といった、卒業式への関与が、上記の結果を導いていることが推察される。

3.2.2．私立高校が公立高校より有意に実施率が高かった内容項目

①賞状授与

高等学校の卒業に際しては、卒業証書のほかに、各種の「賞状」が授与されることが一般的である。

そもそも儀式的行事において学校側が生徒に授与する賞状の種類としては、皆勤賞、精勤賞、優秀賞、功労賞、創立者記念表彰などといった学校表彰 、高等学校長協会賞、高等学校体育連盟賞、高等学校文化連盟文化功労賞などスポーツ・競技表彰、文化・コンクール表彰といった各種公共団体表彰、実用英語技能検定、漢字検定、危険物取扱者免状取得者表彰など民間団体主催各種資格の取得に関する表彰・合格証、そして礼法・茶道など当該学校が正課としていたり指導に重きを置いている伝統文化の免状・免許状など多岐にわたる。「賞状授与」とはそれらを授与する営みの総称である。

この「賞状」を授与する私立高校の賞状授与の実施率が公立高校よりも有意に高かったが、それはなぜであろうか。「賞状授与」については卒業証書授与式の前日、もしくはそれにかわる日に表彰式が行われることがあり、それは「卒業式前日表彰」などと呼称される儀式的行事となっている。この実施によって、卒業式当日の式次第から「賞状授与」を除外することが可能となる。これは卒業式当日の式次第の内容の削減、及び式典にかかわる時間の短縮に直接関与するため、卒業式の当日行事の「スリム化」に寄与するものと考えられる。このように事前に各種賞状を授与してしまえば、当日は卒業証書のみの授与でよいわけであるが、なぜ私立学校においてはあえて卒業式当日にこの「賞状授与」を行おうとするのか。「卒業式前日表彰」と卒業式の当日の表彰とでは何が違うのだろうか。

それらの間に相違がみられる最大の要素としては、「保護者の参列」の有無が挙げられるのではないか。公立学校と比べて保護者における経済的負担の大きいと考えられる私立学校においては、保護者からの教育への期待に対して一定の成果を得たことをアピールする必要が公立学校よりも大きいことが想定される。そのため、学校教育における「成果」を保護者に対して提示するまたとない機会として、卒業式という、学校教育における最後の時間と空間を用いているのではないかと推察される。

②卒業記念品授与

高等学校の卒業に際しては、卒業証書のほかに、各種の「卒業記念品」が授与されることがある。ボールペンや万年筆などの文房具や時計類、フォトフレーム、カップ類といった日常的な実用品をはじめ、袱紗や風呂敷、懐紙入れなど自身ではなかなか購入する機会のない物品が選ばれることもある。

これについては経済的な問題や学校への帰属意識といった要素を考慮すると、スクールアイデンティティをより重視し、また学校に対して経済的な働きかけが前提となっている私立学校の方が、公立学校よりも「卒業記念品」を発行し、また卒業後もそれに積極的に価値を置こうとする成員も多いのではないかと推察される。それらを通して、卒業後も母校との心理的つながりの継続を期待しているとも考えられる。

③保護者謝辞

保護者謝辞は保護者から学校側へ感謝の気持ち（謝意）を表す言葉である。学校側から求めるような性質のものではないが、公立学校の実施率が約11%であるのに対して、私立学校においては約30%とおおよそ3倍もの実施率となっている。保護者謝辞に関しては学校側から辞退する動きをみせても保護者側が拒否して存続を願う（謝辞をお願いしても皆拒否するにもかかわらず）といった状況が現実に存在している。これは「謝辞を言いたい保護者」が存在しないのに、「誰かに謝辞を言わせたい保護者」の声が優先されてこの儀礼が存続している(5)、ということである。なぜこのような心理的機序が働くのかは不明であるが、保護者の中には自身の学校への関与を誇示したいとの意識があり、それがこのような結果に繋がっていることも考えられよう。儀式のスリム化が進められる中で私立学校に謝辞の儀礼が有意に多く残っている事実は、保護者の経済的関与に関する学校側への主張の一つの形態と考えることも可能かと思われる。

④記念品等目録贈呈

卒業生から学校側に対して、学校に遺していく物品についての目録を渡す儀礼が「記念品等目録贈呈」である。記念品としては、記念植樹やテント、天幕、式典・行事用品などを一般的に挙げることができる。

この「記念品等目録贈呈」については、公立学校の約30%に対して私立学校が約52%と、私立学校はその半数の学校が式典の内容として配置している。これはやはり卒業生が卒業後も学校と何らかの絆を持ち、またそれを意識させるための、いわば「意識付け」をひとつの狙いとした営みと考えることができるのではないだろうか。

以上のように、私立高校において公立高校よりも実施されている傾向にあるもののうち、卒業記念品授与及び記念品等目録贈呈については、私立学校の特性であるスクール・アイデンティティの育成と関連していることが推察される。賞状授与もまた、理事長賞など学校独自の賞を設けて表彰していたり、また、私立学校協会からの表彰も関与しているものと考えられる。保護者謝辞については、私立高校に対する保護者の関与を卒業式でクローズアップさせる機能を果たしていると思われる。保護者の代表が儀式的行事の場において、その儀式の一つに登場することは、保護者が経済的な側面をはじめとして、さまざまな形で私立高校の教育に関わっているということを象徴しているものと捉えることができるのではないか。

3.3.新型コロナウイルス禍の影響

新型コロナ禍の影響による式次第と内容項目の変化について検討するために、高等学校の卒業式における式次第を、コロナ禍の影響を受ける以前（影響前）の2019年までの式次第と、コロナ禍の影響を受けている（影響下）2020年～2023年の式次第との比較をχ^2検定を用いて行った。その結果、コロナ禍の影響前と影響下の間で実施状況に関する偏りが有意に認められたものは次の7項目であった。

賞状授与（$\chi^2(1)=51.54, p<.01$）、来賓祝辞（$\chi^2(1)=21.26, p<.01$）、来賓紹介（$\chi^2(1)=5.86, p<.05$）、送辞（$\chi^2(1)=6.86, p<.01$）、保護者謝辞（$\chi^2(1)=6.06, p<.05$）、式歌斉唱（$\chi^2(1)=14.93, p<.01$）、蛍の光斉唱（$\chi^2(1)=9.77, p<.01$）

コロナ禍の影響によって実施が少ない方向に偏りがみられたものは、来賓祝辞、来賓紹介、保護者謝辞、式歌斉唱、蛍の光斉唱であった。これらは卒業生が直接に関わらない内容項目である来賓と保護者に関するものと、ウイルスを拡散する可能性のある歌唱を伴うものであることがわかる。注目すべきは「蛍の光斉唱」が減少の傾向が有意に見られたのに対し、「仰げば尊し斉唱」（影響前の実施率（13.8%）、影響下の実施率（9.6%））については有意な減少の傾向が見られなかった点である。「蛍の光斉唱」ほどには「仰げば尊し」を式歌として外そうとする動きが学校現場では積極的ではなかったことが考えられる。

注目すべきもう一点としては、コロナ禍の影響でその実施が増加の傾向が見られた項目が存在したことである。それは賞状授与と送辞の二つであった。これらについては、従来は卒業式に先立つ別個の行事として行われていたものが、コロナ禍の影響により、卒業式の当日に組み入れられたことによるものと考えることができる。

以上から、今後同様の事態が発生して儀式的行事の内容の精選について検討を余儀なくされた場合の対応の可能性として、儀式的行事の主体が直接に関わらない内容項目と、そしてウイルス等の原因となるものを拡散する可能性のある活動から割愛する方向で検討すること、そしてまた、他の行事で行っていたものを、統合が可能であれば統合する方向で検討することなどを挙げることができる。

4．おわりに

本研究では、現代の我が国における卒業式の儀式作法に注目し、そこでどのような内容が取り上げられているのか、またそれは学校種や、時期の特徴といった要因によっていかなる違いがみられるのか検討した。その結果、公立高校の方が私立高校より有意に実施している傾向が見られた内容項目として、国歌斉唱、祝電披露、来賓祝辞、来賓紹介の4項目が得られた。また、私立高校の方が公立高校より有意に実施している傾向が見られた内容項目は、賞状授与、卒業記念品授与、保護者謝辞、記念品等目録贈呈、であるとの結果が

得られた。またそれらが私立学校の特性であるスクール・アイデンティティの育成との関連や、私立高校に対する保護者の関与の象徴であることに関して検討した。併せて、新型コロナ禍の影響による式次第と内容項目の変化について検討した結果、コロナ禍の影響前と影響下の間で実施状況に関する偏りが有意に認められたものは賞状授与、来賓祝辞、来賓紹介、送辞、保護者謝辞、式歌斉唱、蛍の光斉唱の7項目であり、そのうちコロナ禍の影響によって実施が少ない方向に偏りがみられたものは、来賓祝辞、来賓紹介、保護者謝辞、式歌斉唱、蛍の光斉唱であったことを示した。またその背景及び今後同様の事態が発生して儀式的行事の内容の精選について検討を余儀なくされた場合の対応の可能性について検討した。

今後は検討を更に進めて、卒業式における儀式作法で具体的にいかなる儀式作法を指導することが可能となるのか、その可能性を探っていきたいと考えている。

引用・参考文献

（1）文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年告示），東山書房, p.19
（2）文部科学省（2019）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』,東京書籍, p.89
（3）文部科学省（2018）高等学校学習指導要領（平成30年告示），東山書房, p.482
（4）文部科学省（2018）中学校学習指導要領（平成29年告示），東山書房, p.62
（5）大塚玲子（2020）【卒業式】学校に「いらない」と言われても"謝辞"を続ける保護者の不思議, https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/525d93af2187522f9f6b7922b1234466a488aeca, 2023年12月30日最終確認